

出前健康教室や 婦人会の旅行同行など 開業医は院外での活動を 今後は展開すべき

今次診療報酬改定は、本体部分が8年ぶりのプラス改定となったが、診療所の再診料の引き下げが取りざたされるなど、診療所にとっては今回も厳しい改定内容が予想される。

今後、ますます競争が激しくなるなかで、生き残るにはどうすればよいのか……。PART1では、医療経営コンサルタントとして関西方面を中心に豊富な実績を誇る北浜医療総合経営代表の山本典男氏に生き残り策の1つとして院外活動の必要性について論じていただいた。



北浜医療総合経営代表

山本典男氏

より厳しさを増す 経営環境下で 医療の質向上を

2008年度の診療報酬改定率が昨年末に決定しました。ご存知のよう
に本体部分は0・38%引き上げと、
2000年度改定以来、8年ぶりに
プラス改定となったことに現場の皆さんもほっと胸をなでおろしていること
と思います。

ただ、昨年10月に公表された第16

回医療経済実態調査において、勤務医に比べて開業医の平均月収が高いことが指摘されました。

さらに、厚生労働省の社会保障審議会や中央社会保険医療協議会（中医協）において改定の基本方針として「病院勤務医の負担軽減」が前面に打ち出されていることから、そういう方向で財源配分も行われる可能性が高いといえます。割を食いそうなのは開業医の再診料で、厚生省はその引き下げを再提案するのではないかと噂さ



自院の特徴……



開業医よ、地域のヘルスケアリーダーとなれ!



れています。

もう1つ押さえておかなければならないことは、財源確保の問題です。今回は、小泉政権からの「約束事」である社会保障費2200億円削減を、政府管掌健康保険への国庫支出を健保組合に肩代わりさせたり、後発医薬品の使用促進などで何とか乗り切りましたが、今後も財源の確保に苦労することは確実。診療報酬改定で本体部分の引き上げが続くとは考えにくく、今回のプラス改定に気を許してはなりません。

他方、中医協の議論のなかで、限られた財源を有効的に分配する施策の一環として、提供する医療の質の評価方法を確立したうえで、高い評価を得た医療機関に診療報酬を手厚く支払う、いわゆる「インセンティブ」を導入する意見も聞かれます。病医院

の機能分担が図られ競争激化が進むなか、医療の質を高め、地域から厚い信頼が寄せられることが経営面において最も重要になるといえるでしょう。単に従来どおりの診療を行っているだけで生き残ることはできないのです。

後期高齢者医療制度など新制度を追い風にする

診療所の場合、特徴を出すためには専門特化することが考えられますが、今後は地域医療の窓口、いわゆる「ゲートキーパー」としての役割も求められることから、総合的に疾病治療・予防にあたる「地域のかかりつけ医」になることも1つの生き残り策です。それには、地域の患者さんと信頼関係を構築しなければなりません。この4月から実施される後期高齢者医療制度が良いきっかけになるはずです。

柄を知ってもらうことに尽きます。

勇気をもって一歩を踏み出せ

当社でも診療所の経営支援を行うなかで、クライアントには積極的な外部への情報発信をすすめています(表)。たとえば最近では、健康や診療所に関するフリーペーパーの作成、地域の公民館などを活用した健康教室などは珍しくありません。出前健康教室であれば、スポーツ施設での会員やインストラクターの方を対象としたもの、あるいは老人会や婦人会を活用させてもらったことがあります。また、地域の住民だけでなく専門

同制度では、患者さんに対して1年間の治療・検査計画を記した「高齢者総合診療計画書」のもとに診療を行うほか、複数の医師による薬の重複投与を防ぐために服薬状況を確認することも義務付けられました。日本医師会と学会で構成される組織が定めた研修も受けなければならぬなど、じっくり患者さんと向き合っ

して真剣に取り組むことは、手間がかかっても長いスパンのなかで患者さんとの信頼関係の構築につながり、結果的に患者予備軍が正規のかかりつけ患者になるでしょう。

また、40歳以上に義務づけられた特定健診・特定保健指導も地域住民と信頼関係を構築する良い機会です。ふだん数多くの開業医と接するなかで、同制度を前向きにとらえて、業務提携を結ぶべく、フィットネスクラブに赴くなど、早くも「仕掛けづくり」の活動を展開したり、動きを見せないまでも「興味がある」という医師がいる一方で、「それは保健師の仕事」と、まったく興味を示さない医師もまだ多く、開業医によって「温度差」があるのが現状です。

開業医自ら積極的に外部に目を向けること

確かに、「予防」という概念はそれまで学ぶ機会がなく、イメージできないことは想像に難くありません。しかし、「発症を未然に防ぐ、あるいは遅らせる」という信念のもと、予防に対する

では、「地域のかかりつけ医」となるために開業医は何をすべきでしょうか。まずは、常に外部に目を向け、自ら哲学やアイデアを加味した情報発信を行うことが大切です。前述したように、もはや院内の診療活動だけで患者さんが集まる時代ではなくなりま

職に対してもケアマネジャーの会合やドラッグストアでの勉強会や相談会などを提案しています。このように、外部への情報発信の場面は限りなくあります。

PTなどの医療スタッフとの共演、老人会や町内会の団体旅行における看護師などの同行派遣も好評でした。確かに労は伴います。しかし、それ

大切なことは、地元の住民・患者さんの目線でテーマや方法を考えること。企画を立てても参加率が低ければ意味がないので、地域のボランティア団体を活用してイベント性を高めるなど、一人でも出席者が増えるような工夫が必要です。そのためには内容、場所、対象者、時間などの組み立てがポイントとなります。私の経験からすると、出前健康教室は、医師だけでなく看護師や管理栄養士、薬剤師、

以上大きな効果が得られるのです。もし勇気が出ないのであれば、まずは待合室に顔を出すことから始めてはいかがでしょうか。かつて医師が待合室で患者さんと雑談したところ、新患が増えたケースがありました。院外活動はその発展型といえます。疾患やその予防を医学的に説明するといった難しいテーマでなくても良いのです。地域住民の健康を心身両面から支援するように心がけることが重要なのです。

表 北浜医療総合経営が企画した医師も交えたイベント例

婦人会: Dr. セミナー(ビデオ含む)を主体として

- ・日赤応急手当法または消防署普通救急講習等
- ・減塩ちらし試食会または郷土料理づくり
- ・味噌汁(各自持参)測定 → 保健所機器借用
- ・癒しトーク
- ・FM大阪等アナウンサーの話し方教室
- ・書き方教室(新聞記者)
- ・泥棒大学(鍵学校または警察署防犯課等)
- ・節約講座
- ・体のウソホント・クイズ(小賞品付き)
- ・ダイエット体操
- ・花風呂法や温泉宅配の紹介

老人会: Dr. セミナー(ビデオ含む)を主体として

- ・各種法話
- ・快眠法
- ・懐古料理セミナー
- ・カルメラ、はったい粉、すいとん、鯨どて鍋、水あめ等
- ・懐古紙芝居(愛染かつら、ほか旧作)
- ・物忘れ撃退法
- ・外国老人元気法
- ・民俗具展示
- ・現代子ども気質と付き合い方(中学、高校先生)
- ・老人会旅行へのナース等の同行派遣

介護支援業者: 下記テーマのDr. セミナー

- ・体調兆候の見方
- ・家庭での健康予防
- ・服薬説明など
- ・業者ごとに月1回程度の各研修

会社・各種団体: 下記テーマのDr. セミナー

- ・生活習慣病の予防法
- ・ストレス解消法
- ・夫婦喧嘩セミナー(円満法の講演)